

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2009年第53週  
(12月28日～1月3日)

- \* 2010年1月7日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「Hibワクチン」も掲載しています。

平成22(2010)年1月8日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

## 全数把握対象疾患 報告数 2009年53週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		50週	51週	52週	53週	年累計	53週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	72	55	48	25	4116	132	26253
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					3		16
	細菌性赤痢				2	48	1	179
	腸管出血性大腸菌感染症	3	3	2	4	316	16	3837
	腸チフス	1				11		29
	パラチフス					12		26
四類	E型肝炎					6		54
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			2		24		114
	エキノコックス症					1		25
	黄熱							
	オウム病					1		21
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	4	1	2		14	13	455
	デング熱					32		92
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							125
	日本脳炎							3
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					1		2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア					26		56
野兔病								
ライム病					1		7	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		2			53	3	689	
レプトスピラ症							15	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		50週	51週	52週	53週	年累計	53週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	7		1	140	5	769
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		2			35	1	212
	急性脳炎 *2	3		1		45	5	493
	クリプトスポリジウム症					4		17
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			19	1	140
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1			10		103
	後天性免疫不全症候群	12	6	7	3	472	4	1417
	ジアルジア症	1	1			24	1	74
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	7	2	4	1	196	3	676
	破傷風					7	1	112
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			2		15		117
	風しん	1				19		147
麻しん	1				111	2	741	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	—	—	—	—	1187	—	5038
2010/1/7計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。

2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3全国集計は7月24日6:00現在の国内発生の累計値(検査対象者を含まない。)

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 25件** 肺結核14件、その他の結核11件で、推定感染地は国内23件、インド1件、中国1件、年齢は5歳未満1件、10歳代1件、20歳代4件、30歳代1件、40歳代4件、50歳代1件、60歳代4件、70歳代3件、80歳代4件、90歳以上2件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 2件** 菌種はフレキシネル1件、ソネ1件で、推定感染地はイエメン1件、中国1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、その他1件であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 4件** 患者1件、無症状病原体保有者3件。血清型・毒素型は全てO157(VT1VT2)で、そのうちの3件は同居家族である。年齢は10歳未満1件、10歳代1件、20歳代1件、70歳代1件であった。

#### 〈四類感染症〉

報告なし

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 1件** 腸管アメーバ症で、推定感染地は国内、感染経路はその他(不明)であった。

**後天性免疫不全症候群 3件** 無症候キャリア1件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は30歳代1件で、AIDS患者の年齢は40歳代2件であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)、不明1件であった。

**梅毒 1件** 無症候で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

※第52週該当分として、三類 腸管出血性大腸菌感染症 1件(患者、O157VT1VT2)の追加報告があった。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		50週	51週	52週	53週	年累計	53週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	7		1	140	5	769
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		2			35	1	212
	急性脳炎 *2	3		1		45	5	493
	クリプトスポリジウム症					4		17
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			19	1	140
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1			10		103
	後天性免疫不全症候群	12	6	7	3	472	4	1417
	ジアルジア症	1	1			24	1	74
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	7	2	4	1	196	3	676
	破傷風					7	1	112
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			2		15		117
	風しん	1				19		147
麻しん	1				111	2	741	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	—	—	—	—	1187	—	5038
2010/1/7計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。

2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3全国集計は7月24日6:00現在の国内発生の累計値(検査対象者を含まない。)

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 25件** 肺結核14件、その他の結核11件で、推定感染地は国内23件、インド1件、中国1件、年齢は5歳未満1件、10歳代1件、20歳代4件、30歳代1件、40歳代4件、50歳代1件、60歳代4件、70歳代3件、80歳代4件、90歳以上2件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 2件** 菌種はフレキシネル1件、ソネ1件で、推定感染地はイエメン1件、中国1件、推定感染経路は飲食物による経口感染1件、その他1件であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 4件** 患者1件、無症状病原体保有者3件。血清型・毒素型は全てO157(VT1VT2)で、そのうちの3件は同居家族である。年齢は10歳未満1件、10歳代1件、20歳代1件、70歳代1件であった。

#### 〈四類感染症〉

報告なし

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 1件** 腸管アメーバ症で、推定感染地は国内、感染経路はその他(不明)であった。

**後天性免疫不全症候群 3件** 無症候キャリア1件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は30歳代1件で、AIDS患者の年齢は40歳代2件であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)、不明1件であった。

**梅毒 1件** 無症候で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

※第52週該当分として、三類 腸管出血性大腸菌感染症 1件(患者、O157VT1VT2)の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2009年53週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		50週	51週	52週	53週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	47	75	94	70	0.50	141	150
	咽頭結膜熱	12	20	16	10	0.07		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	187	168	174	52	0.37		
	感染性胃腸炎	934	1,435	1,631	785	5.57		
	水痘	174	225	191	118	0.84		
	手足口病	50	35	43	10	0.07		
	伝染性紅斑	17	18	13	8	0.06		
	突発性発しん	75	69	61	35	0.25		
	百日咳	6	2	2	2	0.01		
	ヘルパンギーナ	10	11	33	6	0.04		
	流行性耳下腺炎	97	131	86	50	0.35		
	不明発しん症 (注1)	8	7	3	4	0.03		
	MCLS(川崎病) (注1)	0	1	2	1	0.01		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	3,987	3,555	2,859	1,145	4.18	274	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0.00	33	39
	流行性角結膜炎	10	12	19	2	0.06		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	2	1	1	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	1	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	6	4	3	0	0.00		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	0	0.00		

2010/1/7集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

# 風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

### (定点把握対象疾患のコメント)

・ほとんどの疾患の定点当たり報告数は減少した。今週は年末年始休暇による医療機関の休診の影響が考えられる。しかし、RSウイルス感染症及びインフルエンザの定点当たり報告数は依然として多いことから、引き続き注意が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

\* インフルエンザに関するコメントは13頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年53週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	7			8	1			1		
～11か月	13			44	4			11	1	1
1歳	22	3	1	148	20	3	1	20		
2歳	17	1	2	101	22	1	1	3		
3歳	3	3	6	67	15	1				1
4歳	7		6	59	28	2				
5歳	1		1	51	10		2			
6歳		1	5	27	8					1
7歳		1	5	34	1		1			
8歳		1	10	21	3					
9歳			3	28	1					
10～14歳			6	58	3	2	3			2
15～19歳			1	13	1					
20～29歳			6	126	1	1			1	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	70	10	52	785	118	10	8	35	2	6
先週比	-24	-6	-122	-846	-73	-33	-5	-26		-27

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月	1			5		
～11か月				7		
1歳	4	1		32		
2歳	4			38		
3歳	6	1	1	33		
4歳	8			42		
5歳	7	1		54		
6歳	6			54		
7歳	7			49		
8歳	2			59		
9歳	2	1		45		
10～14歳	1			175		
15～19歳				92		
20～29歳	2			211		2
30～39歳				124		
40～49歳				80		
50～59歳				28		
60～69歳				14		
70～79歳				3		
80歳以上						
合計	50	4	1	1145		2
先週比	-36	1	-1	-1714		-17

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

## 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年53週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	0

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年53週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				16	1					
中央区			1	8	1			2		
みなと	3	2		22	1	1		2		
新宿区	1	2	2	31				2		
文京	4		2	15	6					
台東	1		1	19	3					
墨田区	1		1	12				1		
江東区	2		6	50	6			3		
品川区	1			21	1					
目黒区				3						
大田区	9	1		44	12	2		1	2	2
世田谷			4	31	2					
渋谷区			1	9				2		
中野区	1	1	4	36	5			2		
杉並	1			23	1					
池袋				7	1		2	1		
北区				16	2					
荒川区				7						
板橋区			1	23		1				
練馬区			1	8						
足立				27	1		1	2		
葛飾区			1	21	4		4	3		
江戸川			2	91	9	2		1		1
八王子市	7		9	44	8			1		
西多摩			1	35	3					
南多摩	12		3	24	2	1				
町田	3		5	62	34		1	6		2
多摩立川				13	4			1		
多摩府中			3	33	2	3		1		
多摩小平	24	4	3	34	9			4		1
島しょ			1							
東京都合計	70	10	52	785	118	10	8	35	2	6

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年53週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2			11		
中央区				11		
みなと	1			16		
新宿区				52		2
文京			1	13		
台東				8		
墨田区	1			37		
江東区	3			38		
品川区		1		9		
目黒区				7		
大田区	4			72		
世田谷	1			57		
渋谷区				8		
中野区				37		
杉並				21		
池袋		1		15		
北区				21		
荒川区				6		
板橋区				35		
練馬区	1			28		
足立	1			32		
葛飾区	2			53		
江戸川	6			85		
八王子市	5			57		
西多摩	8			68		
南多摩	1			30		
町田	7	2		70		
多摩立川	2			38		
多摩府中	1			70		
多摩小平	4			129		
島しょ				11		

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	50	4	1	1,145	-	2
-------	----	---	---	-------	---	---

東京都合計	0	0
-------	---	---



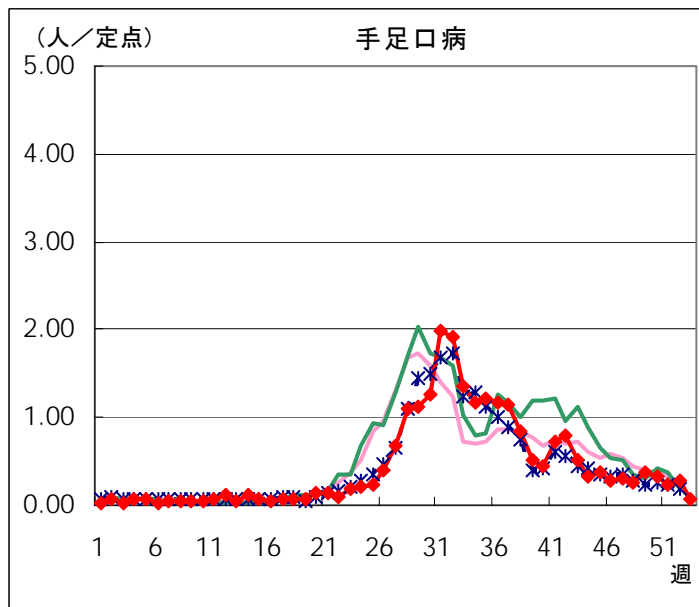
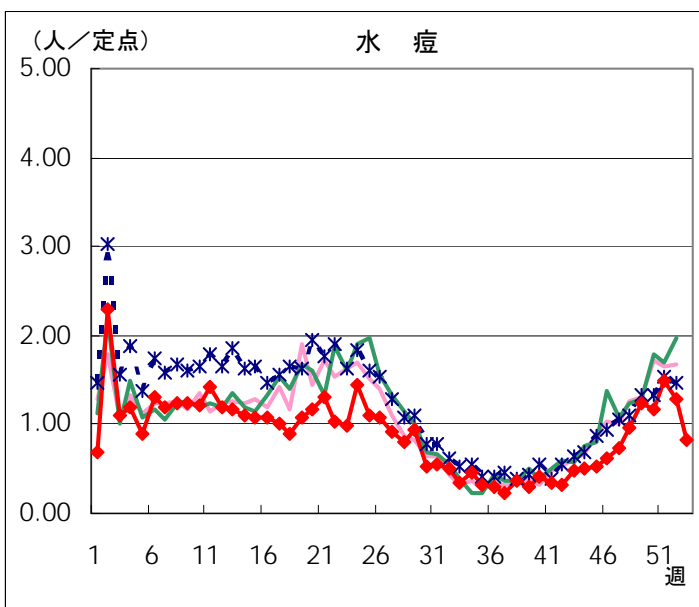
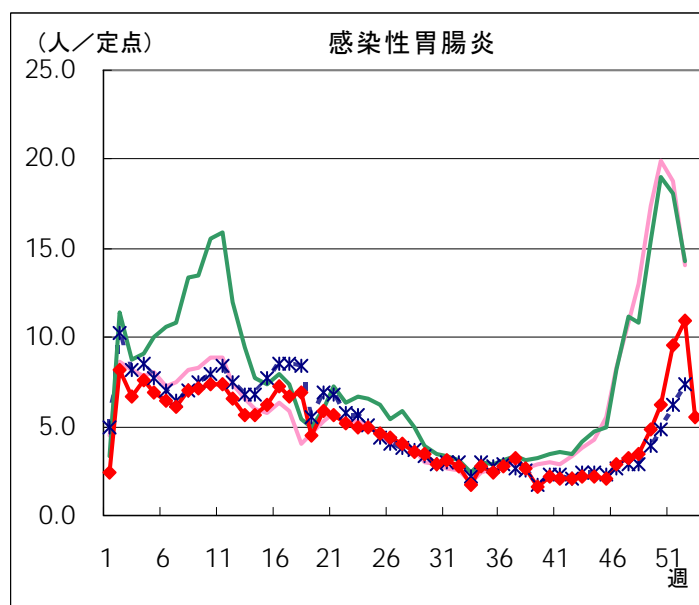
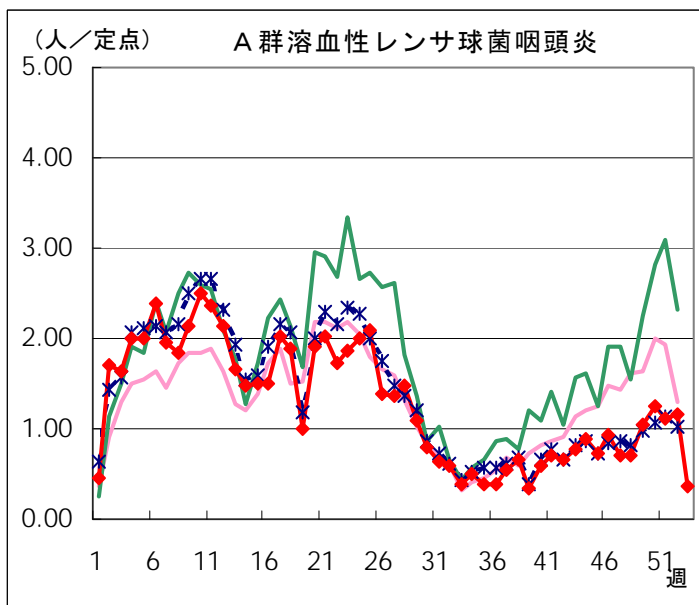
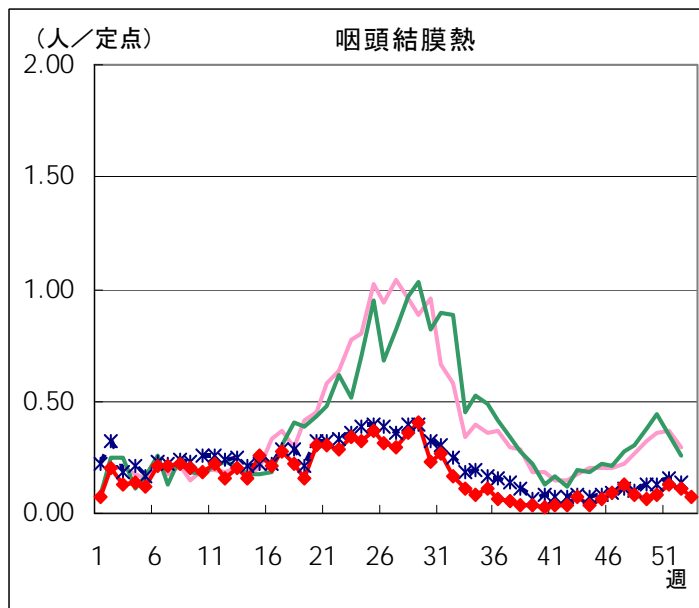
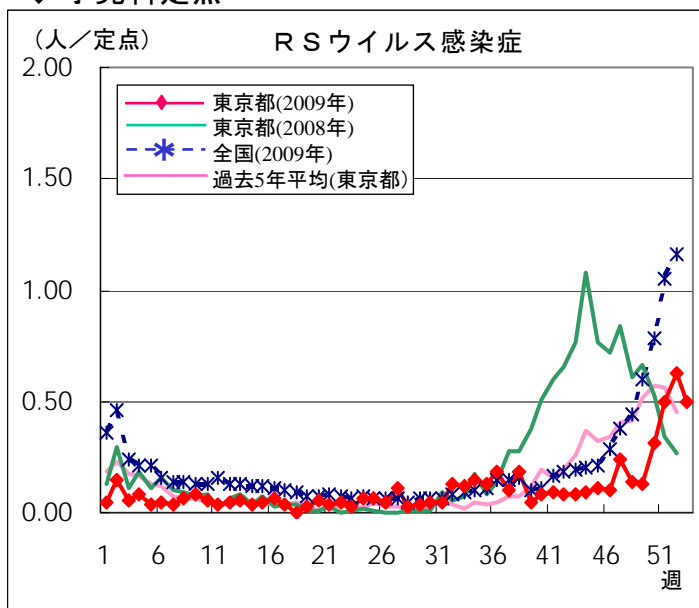
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年53週

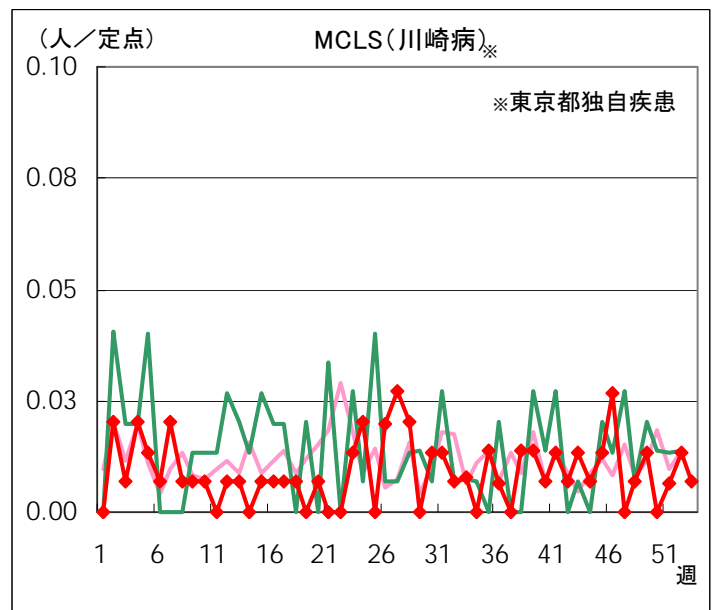
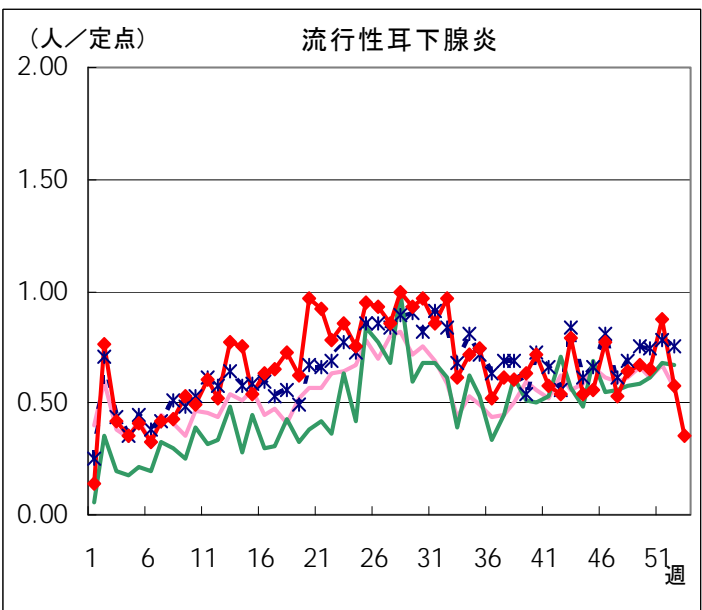
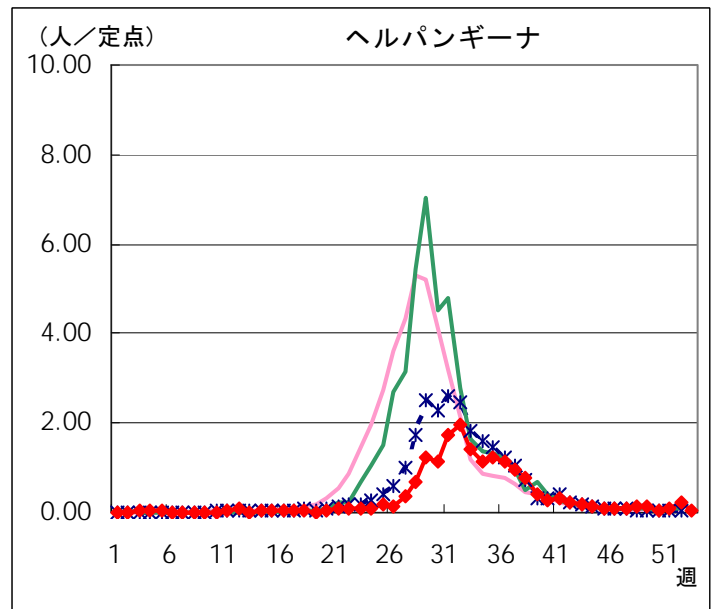
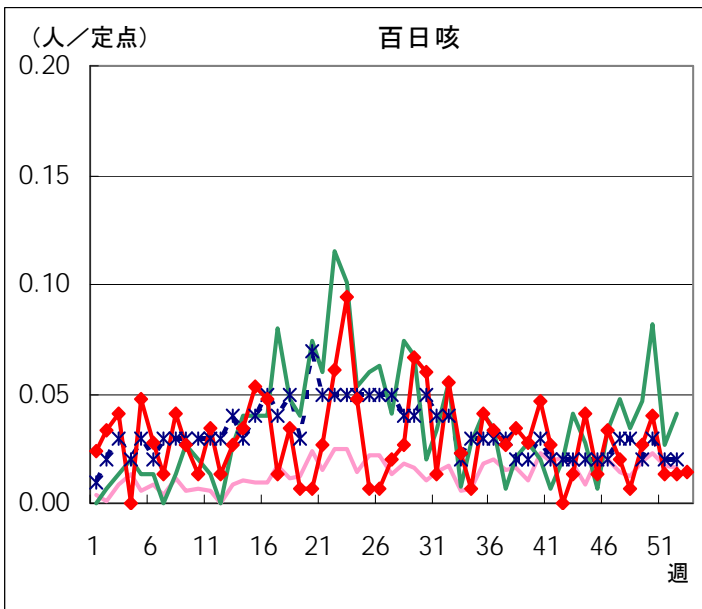
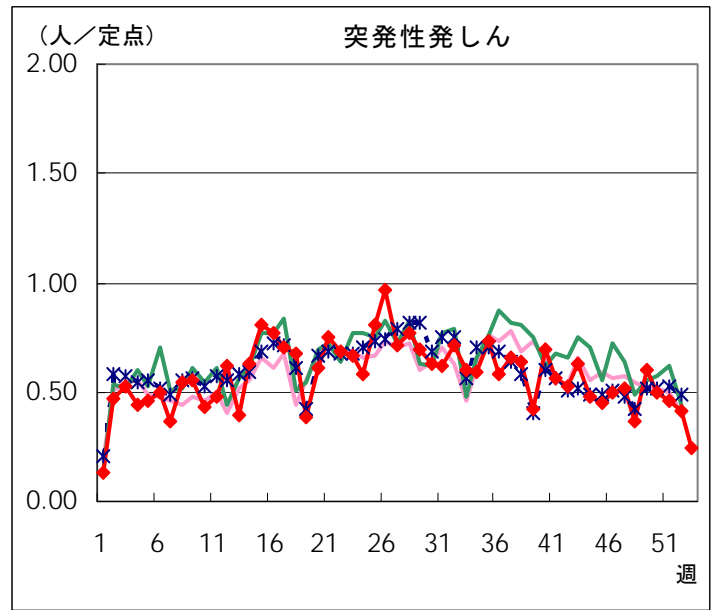
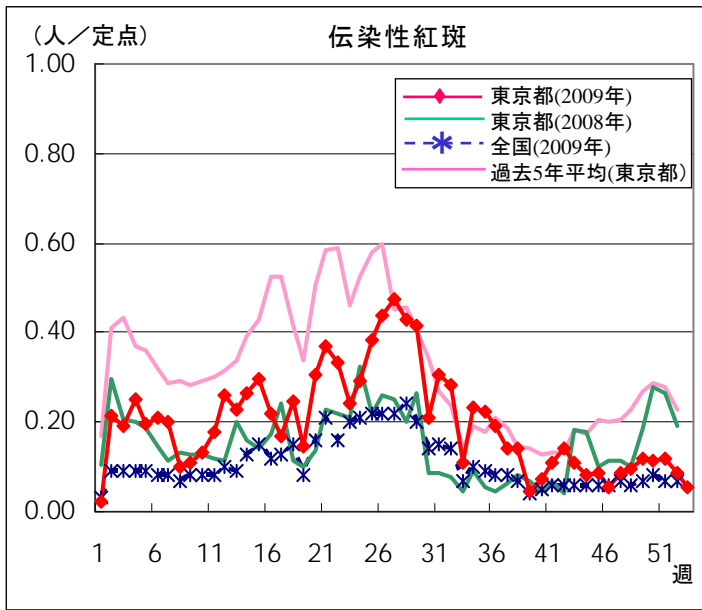
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				5.33	0.33					
中央区			0.33	2.67	0.33			0.67		
みなと	0.50	0.33		3.67	0.17	0.17		0.33		
新宿区	0.17	0.33	0.33	5.17				0.33		
文京	1.33		0.67	5.00	2.00					
台東	0.33		0.33	6.33	1.00					
墨田区	0.33		0.33	4.00				0.33		
江東区	0.50		1.50	12.50	1.50			0.75		
品川区	0.20			4.20	0.20					
目黒区				1.00						
大田区	1.00	0.11		4.89	1.33	0.22		0.11	0.22	0.22
世田谷			0.57	4.43	0.29					
渋谷区			0.25	2.25				0.50		
中野区	0.17	0.17	0.67	6.00	0.83			0.33		
杉並	0.33			7.67	0.33					
池袋				1.40	0.20		0.40	0.20		
北区				4.00	0.50					
荒川区				3.50						
板橋区			0.20	4.60		0.20				
練馬区			0.20	1.60						
足立				9.00	0.33		0.33	0.67		
葛飾区			0.25	5.25	1.00		1.00	0.75		
江戸川			0.40	18.20	1.80	0.40		0.20		0.20
八王子市	1.75		2.25	11.00	2.00			0.25		
西多摩			0.20	7.00	0.60					
南多摩	3.00		0.75	6.00	0.50	0.25				
町田	0.75		1.25	15.50	8.50		0.25	1.50		0.50
多摩立川				2.17	0.67			0.17		
多摩府中			0.30	3.30	0.20	0.30		0.10		
多摩小平	4.00	0.67	0.50	5.67	1.50			0.67		0.17
島しょ			1.00							
東京都	0.50	0.07	0.37	5.57	0.84	0.07	0.06	0.25	0.01	0.04

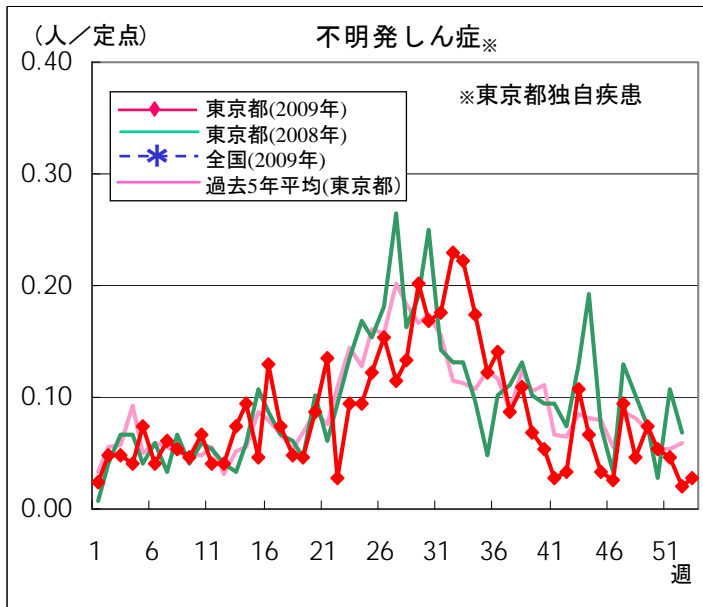
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.67			2.75		
中央区				2.75		
みなと	0.17			2.00		
新宿区				5.78		1.00
文京			0.33	3.25		
台東				1.60		
墨田区	0.33			6.17		
江東区	0.75			4.22		
品川区		0.20		1.00		
目黒区				1.17		
大田区	0.44			4.50		
世田谷	0.14			4.38		
渋谷区				1.33		
中野区				4.11		
杉並				2.63		
池袋		0.20		1.88		
北区				3.00		
荒川区				1.50		
板橋区				3.18		
練馬区	0.20			2.33		
足立	0.33			3.20		
葛飾区	0.50			5.89		
江戸川	1.20			7.08		
八王子市	1.25			6.33		
西多摩	1.60			7.56		
南多摩	0.25			3.33		
町田	1.75	0.50		7.78		
多摩立川	0.33			2.92		
多摩府中	0.10			3.50		
多摩小平	0.67			9.21		
島しょ				5.50		
東京都	0.35	0.03	0.01	4.18	-	0.06

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年53週現在

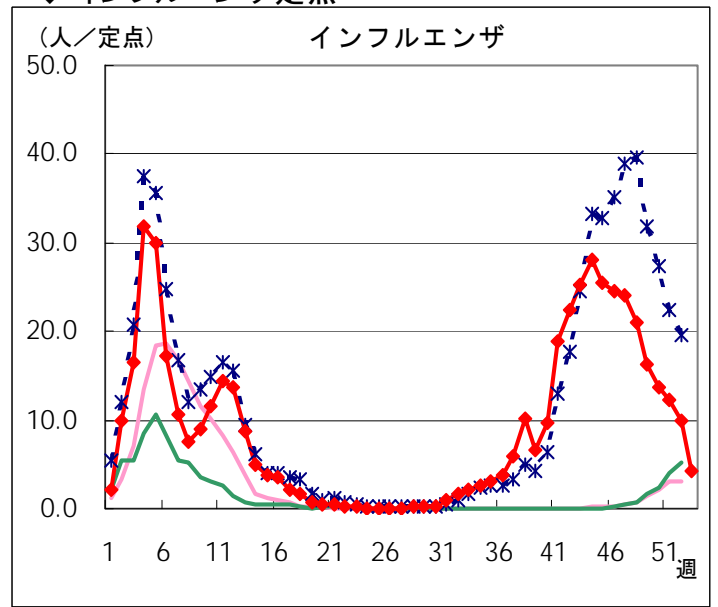
## ◆ 小児科定点



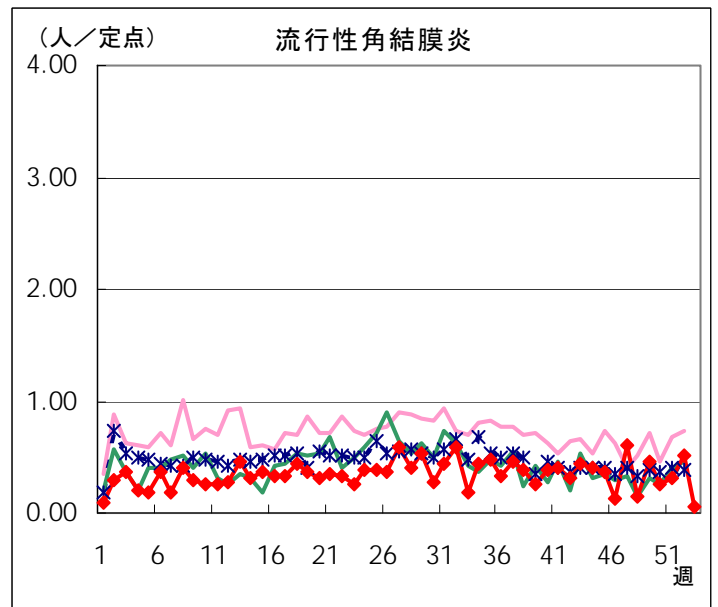
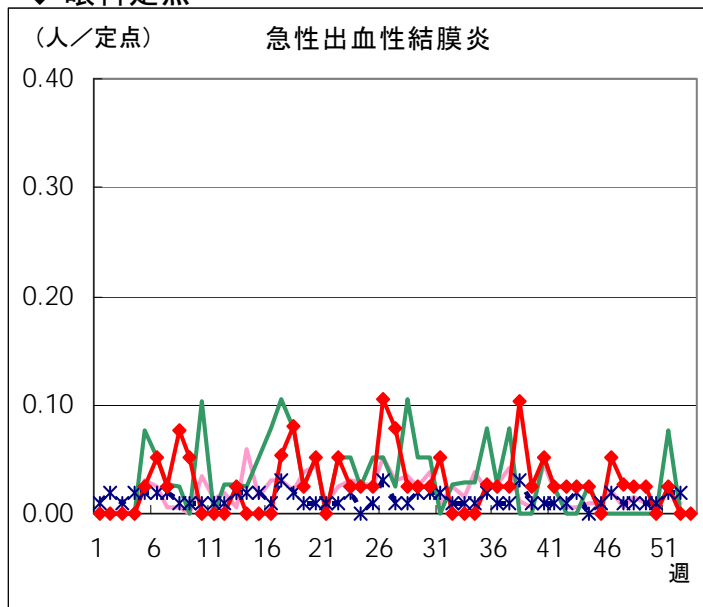




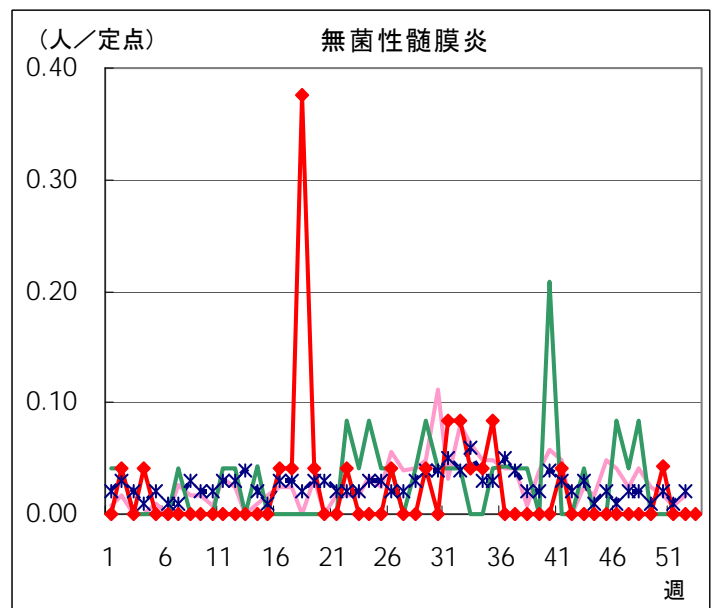
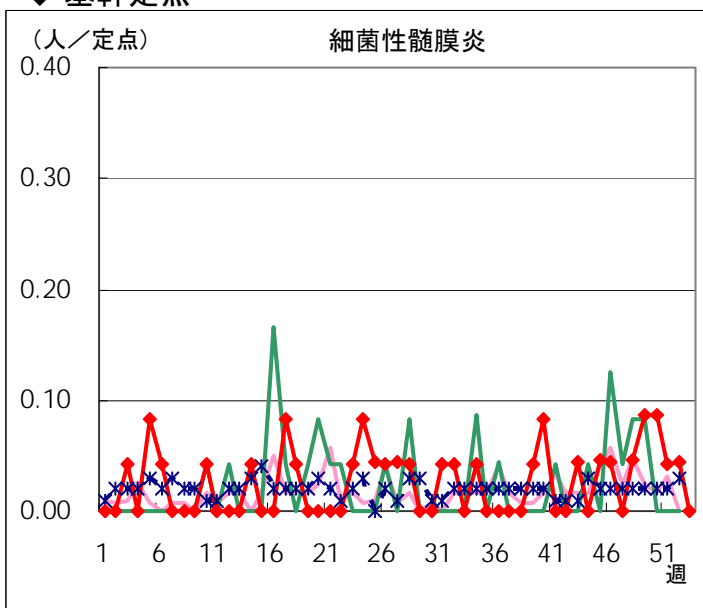
◆ インフルエンザ定点

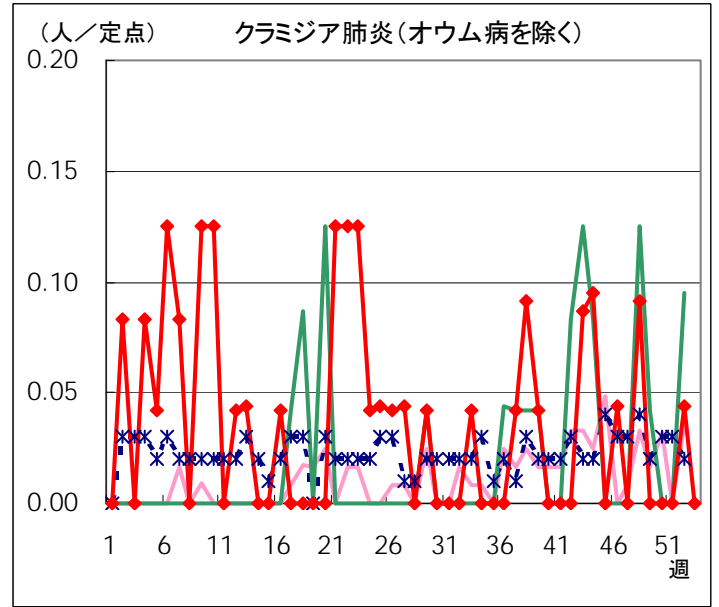
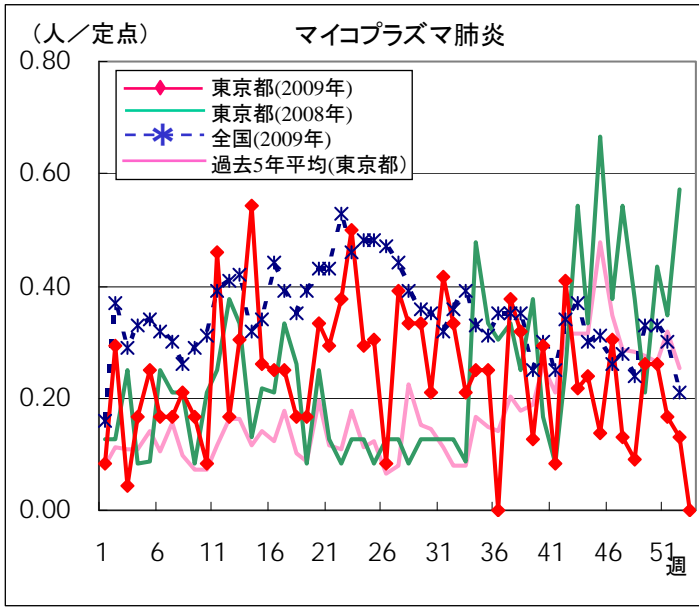


◆ 眼科定点

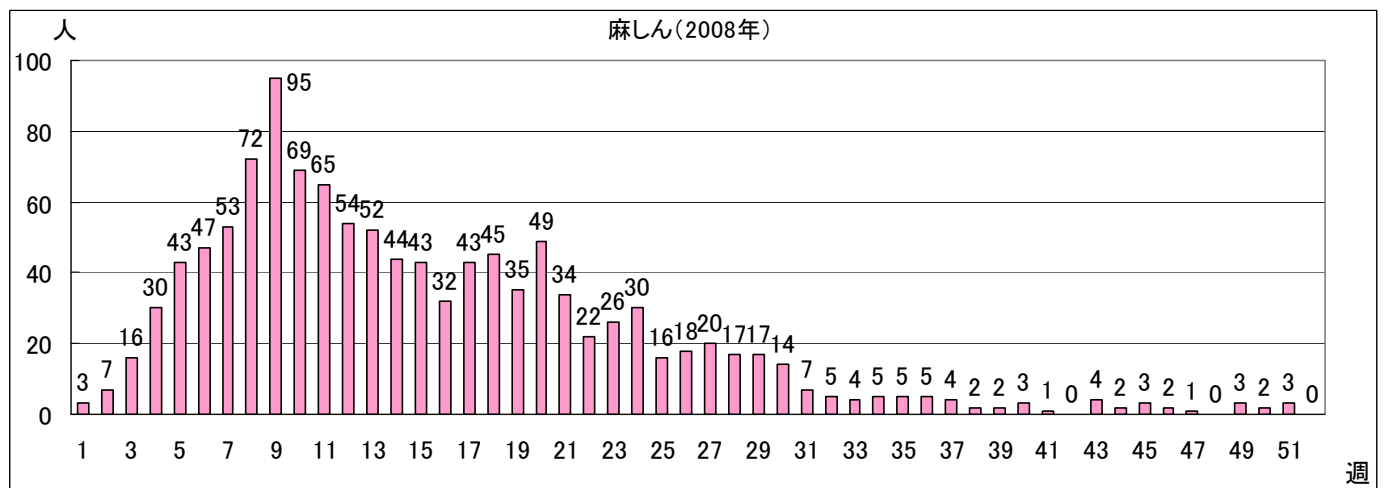
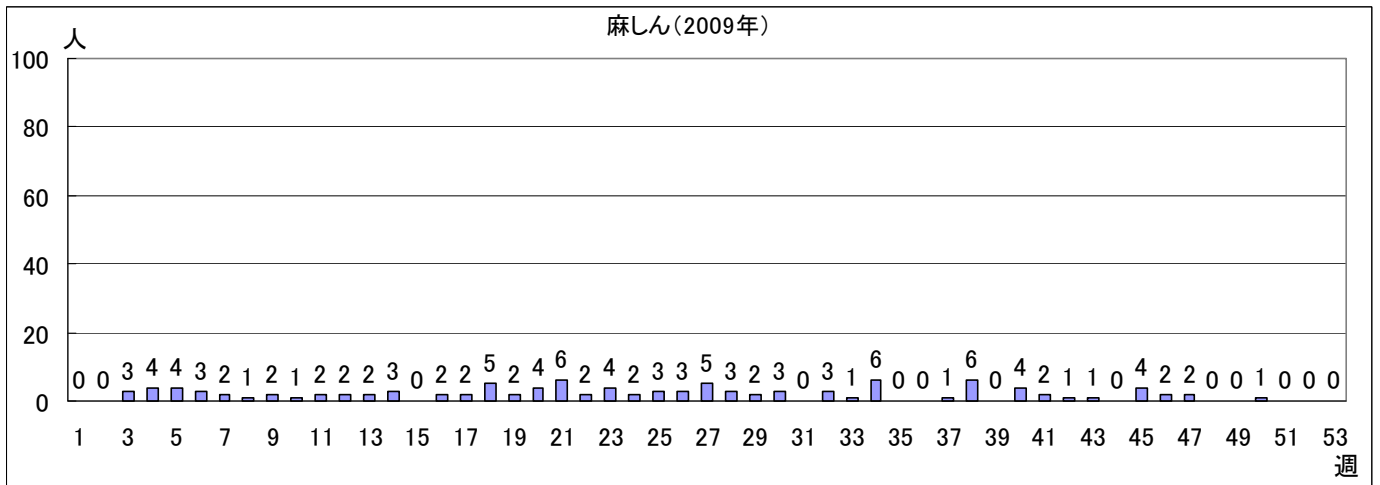


◆ 基幹定点





**全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年53週現在**



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと			患者6名。
	1		
	2		
新宿区	2	2	A型:2歳児2名、B型:0歳、8歳児。
			患者2名。
目黒区			患者3名。
	1		
	3		
大田区	3		
	2		
	6		1日だけの症例です。高年齢化が明瞭で、症例は減少していません。
	3		
中野区	2	1	
	11		
	2		
	8		
	6		
	7		
池袋	3		
	1		
北区			患者1名。
			患者9名。
	4		
	1		
西多摩	14		
	1		
多摩立川	1		
八王子市	6		
	13		
	3		
	1		
	10		
	13		

## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/30/08	けいれん・下痢	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
12/18	突発性発しん	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス7型	
12/18	急性咽頭炎	8	咽頭拭い液	新型インフルエンザウイルス ライノウイルス	
12/19	感染性胃腸炎	3	糞便	ライノウイルス	
12/20	インフルエンザ	11M	鼻汁	エンテロウイルス 新型インフルエンザウイルス	
12/21	サイトメガロ感染症	1M	尿	サイトメガロウイルス	
12/21	手足口病	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
12/21	咽頭結膜熱	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス 新型インフルエンザウイルス	
12/21	不明発しん症	7M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
12/21	アデノウイルス感染症	3M	糞便	アデノウイルス、ライノウイルス	
			咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/21	急性気管支炎	5	咽頭拭い液	新型インフルエンザウイルス RSウイルス	
12/21	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス、ライノウイルス	
12/21	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
12/21	感染性腸炎	48	糞便	カンピロバクター・ジェジュニ	分離同定
12/22	マイコプラズマ感染症	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
12/22	RSウイルス感染症	2M	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/22	心筋炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/24	急性細気管支炎	4M	咽頭拭い液	アデノウイルス、RSウイルス 新型インフルエンザウイルス	
12/24	急性気管支炎	5	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/25	急性胃腸炎	62	糞便	カンピロバクター・ジェジュニ	分離同定



◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
52週	0	0	0	21
今シーズン累計**	1	0	0	549

\*：新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

\*\*：新シーズン(2009-2010シーズン)の開始は第36週(8月31日～9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週
ウイルス	アデノウイルス	1	3	5	2	5	7	2	5
	ライノウイルス	3	6	9	5	8	14	5	5
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	1	4	5		1	2	3	4
	単純ヘルペスウイルス	2	1						
	水痘・帯状疱疹ウイルス						1		
	ヘルペスウイルス6/7	2	4	5	2	4	2	5	2
	EBウイルス	1		1		2	3		
	サイトメガロウイルス			1				2	2
	ムンプスウイルス	1	1	1	1	1			
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス		4	4	3	4	7	3	5
	ノロウイルス	1					1	2	
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
インフルエンザウイルスAH3									
インフルエンザウイルスB									
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	17	37	23	29	50	33	31	21	
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター								2
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌					2	1		
	その他の細菌							1	
その他の病原体								3	

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年45週～2009年52週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	267	25	76	34	33	9		3		5	2	15	10	1			131	
ウイルス	アデノウイルス	9	6	8		1						1	1				4	
	ライノウイルス	15	4	21	3	1					1	4	1	1			4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	2	3	3	2	2	1			4			1				2	
	単純ヘルペスウイルス																	3
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1												
	ヘルペスウイルス6/7	1	1									11	1					12
	EBウイルス		1										1					5
	サイトメガロウイルス					1							3					1
	ムンプスウイルス					2								3				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19																	
	RSウイルス			29										1				
	ノロウイルス				4													
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3																		
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	216	6	12			3											4	
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス																		
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		1	2														
その他の細菌			1															
その他の病原体																	3	

## 感染症豆知識

### Hib ワクチン

新型インフルエンザワクチン騒動の中、日本のワクチン行政の問題点が一般の方にも少し理解されるようになったかと思うが、世界から見ると何かおかしい点がある。そのひとつがHibワクチンで、先進国でのワクチン導入時期に比べると、かなりの遅れがあったことが分かる。

Hibは6つの夾膜型のインフルエンザ菌の中、髄膜炎など重症細菌感染症の原因となるb型インフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae* type b) のことを意味しており、2008年12月から日本でもワクチンが導入され、任意接種として希望者に接種ができるようになったところである。日本では今までこのワクチンが導入されていなかったため、乳幼児で年間約600例が細菌性髄膜炎となり、その5%が死亡、20%が後遺症を残していた。導入後は今までと異なり、上記疾患が予防されることが期待される。

しかし、導入された現在いくつかの課題を抱えている。①定期接種化されていないため任意接種で行われている。乳幼児が罹患しやすく、また生命にも関わる重要なワクチンであるにも関わらず保護者にはかなりの費用負担がかかり、経済的理由から接種できない子供達がいる。②輸入ワクチンの点。今回導入されたのはサノフィパスツール社のものでフランス製である。製造、輸入、検定、販売までにかかなりの時間を要し、また輸入出来る月間本数がまだまだ需要に追いついていない。企業の資料によれば2010年半ばより本格的に供給量が増える予定のようである。③同時接種の必要性。日本では、この問題にあまり取り組んでいなかったが、DPTとの接種時期が重なるため保護者への理解を得ながら推進していくことが重要となる。

Hibの抗体は5歳以上では高くなり予防接種の必要性が少ないことから、接種時期と回数は下記の通りである。①生後2ヵ月以上 4～8週間隔で3回接種。1年後に追加接種。②7ヵ月以上12ヵ月未満 2回接種。1年後に追加接種。③1歳以上5歳未満 1回接種。

(文責 沼口小児科 沼口俊介)